海外の緑化事情　オーストラリア・・シドニーの緑化事情

http://www.ryokka.org/

シドニーと言えば、オーストラリアの首都と思われている方も多いと思いますが、首都は「キャンベラ」です。

そのシドニーにある、セントラルパークモールのビル。低階層はショッピング、上の方は高級マンションとなっており、建築の形としても特異な形をしており、壁面緑化が施され29階には空中庭園があります。

公園ではなく、ビルが林立するエリアになります。

その中心をなす、セントラルパークはビール工場だった敷地にショッピングと居住の複合施設として、再開発されました。

近代的な建物の外壁に緑化が施されてとても印象的な建物です。設計はフランス人建築家のジャン・ヌーベル氏、緑化デザインは同じフランス人植物学者でありアーティストのパトリック・ブラン氏。

このように、再開発で建てる建築建造物には緑が施され、建物の中も緑であふれています。壁面や屋上庭園の緑は熱の遮断効果や蒸散作用、光合成などでの気候の改善にも貢献し都会のオアシスともいえる建築になっています。

開発プロジェクトの基本が緑。そして世界的にも実績がある有名な建築家やグリーンデザイナーを迎えて施工をおこない、サスティナブル（地球環境を維持する）をもとに設計されており、高度成長期にみられる建築による環境破壊がおこなわれず、環境を維持することが重要な要素となっています。

日本の場合は、法律で何％緑を作ればよい。というものが大半ですが、こういった地球環境を守って維持していく事を主軸とした再開発が主になればと思います。

大日化成では、地球環境にやさしい製品をご提供し、少しでも環境に役立つことで社会貢献させて頂きます。

透明外壁防水材「スカイコートW」講習会について

外壁タイル張り面の透明外壁防水材「スカイコートW」も上市して約2年が経過しました。

使用材料がすべて水性の1材型のため、作業中の溶剤臭もなく、材料の計量や撹拌の手間も省ける事、硬化成膜後の塗膜物性についても伸び・塗膜強度ともに優れた性能を持つ事、透明度も高く美観性も優れている事等が、実際に現場で「スカイコートW」を採用頂いた御施主様や施工業者様に高く評価して頂いており、お陰様で順調に施工実績も増えてまいりました。

しかしまだまだこの製品について知って頂いている施工業者様の件数は限られており、正しい施工方法や優れた製品特性について周知できていないのが現状であります。

そこで、当社では施工業者様を対象とした「スカイコートW講習会」の開催を計画中です。まだ具体的な内容については検討中ではございますが、大きな会場で大人数を集めて施工動画等を観てもらって説明を聞くだけの講習会ではなく、少し参加人数を絞って、実際にタイルを張った試験板を用意して「スカイコートW」の材料を塗ってもらい、材料の作業性や適正な塗布量について体感して頂けるような講習会を考えております。

講習を受講して頂いた方には「スカイコートW講習会受講修了証（仮）」を発行、登録させて頂くことも検討しております。講習修了者を登録させて頂くことにより、外壁タイル改修工事の案件で直接当社に施工業者の紹介をして欲しいという依頼があった場合、現場に近い登録業者を紹介させて頂く事も可能となります。

詳細が決まり次第、当社ホームページや担当営業マンを通じてご案内させて頂きますので、興味を持って頂いた施工業者の皆様、是非とも御参加くださいます様、お願い申し上げます。

※「スカイコートW」の優れた塗膜物性については、当社ホームページ内「動画で紹介大日製品」のコーナーで動画を公開しておりますので御参照下さい。

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0012　東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

次号も
お楽しみに

URL：http://www.dainichikasei.co.jp

Vol.45

映画で学ぶ環境問題

今回ご紹介するのは、アメリカ議会を舞台にした「ホワイトハウス狂騒曲」。

コメディ俳優として一時代を築いた今年58才のエディ・マーフィーが、一番脂がのっている30代に、金目当ての強欲下院議員を演じた作品です。

ストーリーは、『フロリダで詐欺師をしていたエディ演じるジョンソンが、政治家が「いかに儲かる商売か」を知り、得意の悪知恵を使って見事、下院議員として当選をはたします。さらに「荒稼ぎできる議員」をめざし「黒人」という立場を有利に使って、電力産業委員会にもぐりこみます。あとは寄付金を稼ぐだけと思った矢先、人道活動家の女性に恋をしてしまい、さらにはガンにかかった子供からの陳情を受けて、人としての良心が芽生えてしまいます。

ホワイトハウス狂騒曲
原　題：The Distinguished Gentleman
監　督：ジョナサン・リン
製　作：レナード・ゴールドバーグ
　　マイケル・ペイサー
出演者：エディ・マーフィ
　　レイン・スミス
上　映：112分
制作国：アメリカ合衆国
配　給：ブエナ・ビスタ
公　開：1992年（米国）

ガンの原因を調べてみると、小学校に隣接する高圧送電線の鉄塔だというのです。しかも、この地域では小児ガンが多発しているとのこと。

早速、先輩議員に話をもちかけるも、当の電力産業委員会は、電力会社からの多額な寄付と賄賂で成り立っている世界でまったく相手にされません。さあ、どうやって打開するか！

もちろん解決策は、ジョンソン得意の悪知恵と詐欺的テクニック。電力会社の幹部と守銭奴議員をギャフンといわせ、スカッと解決！？』

驚くべきは、いくらコメディであっても、おおっぴらに電力会社を悪者に描いている点。政治家を悪く描くハリウッド映画は今もありますが、いくらブラックユーモアとはいえ、高圧送電線鉄塔がガンの原因であり、しかも悪いのは電力会社や議員だと主張する「商業映画」は、今の日本では考えられません。しかも配給会社は、子供達から人気のディズニー系列（ブエナ・ビスタ）ですから、よくこの作品が広く公開されたものだと感心します。

で、今なぜこの作品を取り上げたのかといいますと、高圧送電線鉄塔がガンの原因というのは、つまり「電磁波」が人体に悪影響だという説であり、今話題の「5G」にも、こういった懸念があるとされるからです。

現在私たちがスマートフォンなどで使っているものよりも、さらに大容量の通信を、超高速、低コストでやりとりできる次世代の移動通信システム「5G」は、無害であるとの研究結果が発表されている一方で、アメリカ国立ガン研究所では「少数の研究では、携帯電話の使用と脳腫瘍リスクとの間には統計的な関連性を示唆する証拠がいくつか示されている。」としています。

また、カリフォルニア州サクラメントの消防署では、5Gアンテナが設置されたことで健康面に大きな問題が出たと、騒動になったりしています。

5Gではなく、日本に現在普及している4Gレベルであっても、アメリカ保健当局は、「就寝時に枕の下にスマホを入れるのは良くない。1メートル前後は離した方が良い。」という見解を出しており、乳がん専門外科医のなかには、胸ポケットにスマホを入れていると乳がんのリスクが高まると警告する医師もいます。

イギリスでも、成長期の子供の脳に悪影響があってはいけないため、必要以上に子供達に携帯電話を使わせないように指針が出ているようです。電磁波の健康リスクそのものへの調査については、世界保健機関（WHO）も1996年に「国際電磁界プロジェクト」を発足させています。

こうやって考えてみると、目に見えない高周波の電磁波が大量にいきかう5Gの導入は恐ろしい気もしますが、無害であるとの調査研究も多くありますので、本当のところはどうなのかという知識と関心は寄せて頂きたく、今回ご紹介いたしました。

機会があれば、ぜひ一度ご覧ください。